

# 芝生の張り方

## まずは植え付け場所の環境を確認し、床づくりをしましょう！

芝生は日当たり、水はけ、風通しが良いことが条件です。風通しのよい南向きの開けた場所を選びましょう。特に、日当たりが十分あるということが重要で、4～5時間(半日程度)の日当たりがあれば生育できます。日陰が多かったり、じめじめとして水はけが悪い場所は、芝生の生育バランスが崩れ、病気にかかりやすくなります。芝張り前に陰となる部分を確認しましょう。陰となる部分は避けてください。

植え付け場所の環境を確認した後、雑草は除草し深さ20～30cm耕します。

※30cm程度穴を掘って水が染み出る場合や、掘った穴に水を流し込んでも水はけがよくない場合は芝張りに適しません。粘土質は土が固くなるため水の染み込みが悪くなり、根の伸びも妨げられます。その場合は土壌の改良を行う必要があります。その他、床

### 芝の張り付け手順



深さ20～30cm耕し石や雑草などを取り除く。表面をレーキなどで平らにし踏み固める。



芝張り前に散水をする。床土が馴染み、芝の根が水を吸収しやすくなる。



芝生を隙間がないように、平張り(ベタ張り)で張りつける。



芝生と床土が密着するように、しっかりと踏みつける。特にマットタイプ芝は1枚が小さく軽いので、上から細かく踏むことをおすすめ。



目土を均等にかける。目土の量は葉先が見えるくらいが目安。手のひらで円を描くようにすり込む。芝と芝の隙間に入り込み乾燥しにくくなる。目土は乾燥から芝生を守る重要な作業のため必ず行う。



たっぷりと散水(水やり)をする。目土が流れない程度にたっぷりと散水し、水がいったんしみ込んだら再び散水する。水浸しになるくらいまで散水を繰り返すことで芝生の根まで水が行きわたる。



約1ヶ月間ほどは芝生を利用しないようにする。芝張り後の生育不良は水やり不足がほとんど。早朝と日暮後に15～20分の水やりが理想的。ホースで散水する場合はできるだけ芝生を踏まないようにする。自動灌水装置や灌水チューブを利用すると大変便利。



葉の長さが50mm程度になったら一度刈りこむ。※芝張りして約1ヶ月後が目安。1ヶ月経っていない場合でも葉の長さが長くなったら刈りこむとよい。



均一に適量の肥料を与える。約1ヵ月後、1㎡あたり1握り(約30g)の芝生専用肥料を与える。芝が伸びている場合は肥料が芝と芝の間に入りこむため芝刈後に与える。※葉が湿っている場合は肥料焼けを起こすため葉が乾いてから与える。



# 芝生のお手入れ方法

## ①散水(水やり)

### 水管理:朝・夕に時間をかけてたっぷり!

梅雨～9月下旬までの間に日射しが強く雨の降らない日が続く場合は、十分な散水を行ってください。葉先が丸くなったら危険信号です。葉全体が黄色くなってしまったら水を与えて新芽が生長するのを待つかありません。気温が高い時間帯は地中の温度も非常に高く、その時間帯に水を与えると土の中で熱湯状態になり枯れる原因になります。特に6月～9月の期間は、地域によって異なりますが、朝方ならば6時頃までに、夕方ならば日暮れ後の19時以降にたっぷり散水してください。芝の表面が濡れた程度では根まで水が染み込みません。特に7～8月の夏場4～5日晴天が続いたら適宜行ってください。葉が針のように丸くなくても水を与えれば元気になります。スプリンクラーや散水チューブを使用した場合の散水時間は15～20分程度が目安です。

## ②施肥

### ◆目的◆

草丈を一定に保つ。緑が濃い芝生を保つ。芝を均一にするために生育を旺盛にする。芝生の傷みを回復させることができる。

肥料を与える時期は、4月～7月、9月です。ただし、猛暑日は肥料焼けをおこしやすいので避けましょう。色が落ちてから一気にたくさん与えるのではなく、色が落ちる前に少ない量をこまめに与えましょう。肥料は1ヶ所にかたまらないよう均等に撒いてください。施肥後は肥料分が浸透しやすいよう散水するとよいです。気温が高い時期は、夕方の涼しくなってから散水しましょう。

**注意:** 降雨直後で葉が濡れているときは葉の表面に肥料が付着しやすく、付着部分で肥料焼けを起こすため施肥を行わないでください。

芝生の隙間に入り込む粒の小さい肥料を選び、散布後にしっかり水をまいて落ち着かせるのがポイントです。当店取扱の「有機入り芝生専用肥料」が便利で安心です。施肥量の目安は、1㎡あたり1握り(約30g)です。

### 有機入り芝生専用肥料



細粒でまきやすく、芝の育成に最適です。天然有機質肥料が入っているので効果が長持ち!

## ③刈込み

### ◆目的◆

きれいな芝生を維持するために欠かすことのできないとても重要な作業。芝は放置すると下部が蒸れて雑草が生えやすくなり、病虫害の発生もおきる。刈込むことで雑草を抑える働きもある。

刈込み頻度の目安	5～6月、9～10月	7・8月
強力ロール野芝	1回/月	1～2回/月
強力ロール高麗芝	1回/月	1～2回/月
マットタイプ野芝	1～2回/月	2～4回/月
マットタイプ高麗芝	1～2回/月	2～4回/月
マットタイプ姫高麗芝	2～3回/月	2～4回/月

5月～10月の間、月1～4回、成長具合に応じて刈り込みを行ってください。日本芝(野芝・高麗芝・姫高麗芝)は夏が生育旺盛になるため、週1回の刈り込みが理想的です。頻繁に刈込むことにより芝が密になりきれいな芝生になります。また、密になることで雑草の発生も抑えられます。

### ■刈り込み方法について

好みにもよりますが、一般家庭の場合は1.5cm～3cmの刈り込み高さが理想です。刈り込みは芝刈機が便利です。同一方向のみ刈り進めるのではなく、横刈り、縦刈り、対角線刈りといったように向きを変えて刈り込みを繰り返すことで、きれいな芝生ができます。

### ■芝が5cm以上に成長してしまった場合

一気に刈り込むと新芽が出てくる軸まで刈り取ってしまうことになるため、1週間ずつ徐々に低く刈り込んでください。刈りすぎると枯れる恐れがありますので刈り高にはご注意ください。

### ■刈りかす(サッチ)は病気の原因

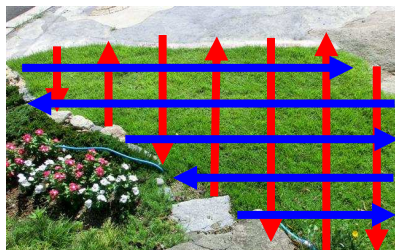
刈り取った刈りかすは病気や枯れる原因になるので、熊手やホウキなどを使い必ず芝生から取り除いてください。

### 刈り込み方法

芝刈は一方方向のみで行うのではなく、横刈りと縦刈りを繰り返してください。



手動タイプ芝刈り機



## ④通気作業

### ◆目的◆

芝生に穴を開け土中に空気を供給する作業。土がほぐれ水はけの改善になり、芝の根へ水や空気を補給することで芝生の生長を助ける。この通気作業は時期を問わないが、特に芝の生育が盛んな夏がおすすすめ。年に1回は行い、弱った芝を回復させるとよ

### 1. 芝生に穴をあける

深さ5cm程度の穴をあけます。面積が狭い場合はマイナスドライバーや鉄の棒で穴をあけることができます。また、通気専用の道具を使うと大変便利です。

### ガーデンスパイク



芝生に簡単穴開け歩きだけ!芝生の生育環境を改善します。

### スーパーローンカッター



根を切るスパイクと固くなった土を取り出すパンチの2通り使える!

### 2. 目土をふるいを使ってかける

ムラにならないよう通気を行ったところに目土を入れてください。目土の量は、生長点が隠れる程度(芝の葉が見える程度)が目安です。

### 芝生の目砂



粒子が細かく粒の大きさが揃っており、芝の密度が高いグリーンにも馴染みます。

### ホースリール

### 3. 散水する

散水して芝生の回復を促進させます。普段の散水と同じように、たっぷり時間をかけて与えてください。



手を汚さずに すっきり収納! 日差しからホースを守る着脱可能なカバー付き!

## ⑤雑草防除

雑草は手取りが原則です。小さいお子様がいる一般家庭の庭では除草剤を使わない方法で雑草防除をしましょう。窒素肥料を施して頻繁に刈り込みをすると芝生が張り詰まり、徐々に雑草の発生が少なくなります。

また、最後の手段として、除草剤を使う方法があります。当店では芝生専用の除草剤も取扱っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

※市販の除草剤には、目的の雑草だけを枯らす選択性除草剤と薬剤が付着した雑草を全て枯らす非選択性除草剤とがありますので、薬剤の使用法(対象雑草、使用量)をよく読みご使用ください。